

静岡県清水市旧市域方言のアスペクト

河守和子・山口幸洋

I. はじめに

(1) 調査地点：静岡県清水市

静岡県中部駿河湾に面し、戦国時代より漁業のほか巴川河口に海運基地としての地名、清水湊、江尻湊があった。江戸時代は東海道53次の宿場町「江尻」だった。明治時代から港湾都市としての発達がめざましく、清水港は有名。大正13年市制、平成5年7月人口24万1千人。

(2) 調査年月日：1993年9月1日午後1時～4時

(3) 話者：河守初子（明治40年11月3日清水市生まれ。22才より志太郡大井川町に移籍）

(4) 調査者・調査場所：河守和子（祖母である話者自宅での聞き取り）

・山口幸洋（調査法の指示、アドバイス、まとめ、報告書作成）

(5) 記載要領・表記など：「（上昇）」、「」（下降）によるアクセント表記を施す。

感動詠嘆の文末助詞は代表的な語形にとどめ、その他の形式を省略する。その場合に*マークを付す。

回答が前回に対するものと同じ場合、=とその番号を付して省略する。

例：30=29

II. 調査報告

1. (昔はよくトンボ捕りに) 行ったもんだね

イ「タ「ッケナ「ー*、イ「タ「ッキナ「ー*

2. (あの頃は) 面白かったなあ

オ「モシロ「カッタケナ「ー*、オ「モシロ「イッケナ「ー*

オ「モシロ「カッタナ「ー*

3. (もうちょっとで) 落ちるところだった

オ「チ「ルト「コダッタヨ、オ「チ「ルト「コダツケヨ*

4. (ポケットから財布が) 落ちそうだよ

オ「チソ「ーダ「ヨ*

5. (財布を) 落として

オ「ト「イテ

6. (その続き) 困っている

コ「マ「ッテル

7. (ろうそくが) 消えそうだよ [「消える」はケール]

ケ「ーソ「ーダ「ヨ*

8. (ろうそくの火が) 消えようとしている

ケ「ーカカ「ッテル

9. (完全に、今見ている内に) 消えた

ケ「ータ、ケ「ーチャツタ、ケ「ーチマツタ、ケ「ーテシマツタ

10. (見に行ったら、もう) 消えていたよ

ケ「ーテ「タヨ*

11. (何本ものろうそくが、時間が経ったので順に) 消え始めた

ケ「ーハジメ「タ、ケ「ーカカ「ツタ

12. (その様子を見て) 消えて行くなあ ケ「ーテ「クナ「ー＊
13. (その様子を見て) 消えているよ (と、人に言う)
ケ「ーテ「ルヨ＊, ケ「ーチャッテ「ルヨ＊, ケ「ーテシマッテ「ルヨ＊
14. (全部のろうそくが消えた様子を見て) 消えているよ
ケ「ーテ「ルヨ＊, ケ「ーチャッテ「ルヨ＊
15. (沢山のろうそくを、係りの人が次々と) 消しているよ
[「消す」はケス, ケヤス併用] ケ「ヤイテ「ルヨ＊, ケ「シテ「ルヨ＊
16. (その様子を別のの人に見に行かせて、全部消したかどうかを聞く)
消しているか、消してしまったか
ケ「ヤイタ「カ＊, ケ「ヤイテ「ルカ＊, ケ「ヤイチャッタ「カ＊
ケ「シタ「カ＊, ケ「シテ「ルカ＊, ケ「シチャッタ「カ＊
(注) ～タ, ～テル, ～チャッタの違いは共通語と同じ。
17. (今にも桜が) 散りそうだ チ「リソ「ーダ
18. (ちらほら) 散り始めた
チ「リカカ「ッタ, チ「リカカ「ッテル, チ「リソ「メタ (手紙で使用)
19. (今現に) 散っている チッ「テ「ル
20. (桜を見に行ったら、もう木には花が残っていないくて) 散っている
チッ「テ「ル, チッ「チャッテ「ル
(注) ～チャッテルの場合は「もうすでに」という気持ちを強調するもの。
21. (地面に花びらが) 散っている チッ「テ「ル
22. 今にも降りそうだ フ「リソ「ーダ
23. (以前の様子。あのときは今にも) 降りそうだったなあ
フ「リソ「ーダッタナ「ー＊, フ「リソ「ーダッケナ「ー＊
24. (以前の様子。あのときは実際にはもう) 降っていたよ
「フ「ッテタ「ヨ＊, 「フ「ッチャッテタ「ヨ＊
25. (あのときはやがて夜が) 明けようとしていたよ
「ヨ「ガアケカカ「ッテタ「ヨ＊
26. (来年の今ごろは) 家をたてている (最中だ)
ウ「チョ「ータ「ッテル, ウ「チャ「ータ「ッテラ「ー
27. (来年の今ごろはすでに) 家をたてているよ (建て終わっている)
ウ「チョ「ータ「ッテル, ウ「チョ「ータ「ッチャッテ「ル
28. (あの家はよく) 磨いてある ミ「ガイテ「ア「ル
29. (隣の犬が) 鳴いている ナ「イテ「ル
30. (隣の子が) 泣いている = 29
31. (子供が) 喧嘩している ケ「ンカシテ「ル, ケ「ンカシテ「ール
32. (家に) いるかなあ イルカイナ「ー＊, イルカナ「ー＊
33. (〇〇さん) いるかい イルカ＊
34. (ああ) いるよ イルヨ＊

35. (噂話で) そういう人もいるよ (「人」はシト, ヒト併用)
ソ「ーユーシト」モイルヨ*
36. (あなたは今) 何をしていたか
「ナ」ニョーシテ「タ」ダ*
37. (私は今金魚を) 見ていたよ
「ミ」テタダ「ヨ」*
38. (金魚が今にも) 死にそうだ
シ「ニカカ」ッテル
39. (夕方帰って見たら, その金魚は) 死んでいたよ
シ「ンデ」タヨ*
40. (本を) 読み始めていた
ヨ「ミハジメ」テタ, ヨ「ミカカ」ッテタ, ヨ「ミカ」ケテタ
(注) 三者の区別は共通語に準じ, 口で表すのは難しい。
41. 読み始めていたところへ (電話がかかって来た) ヨ「ミカ」ケテタトコ「イ
42. 着くと同時に (昼飯を) 食べた 「ツ」クトイ「シ」ョニタ「ベ」タ
43. (向こうへ) つくと同時に電話をくれ 「ツ」イタラス「グ」デンワークリョー*
44. (電話が) 鳴り続けている ナ「リ」ツズケ「テ」ル
45. (小学生の子供に) 先生は何をしている?
セ「ンセ」ーワ, 「ナ」ニョーシテルダ*
46. 好きだ ス「キ」ダ
47. 見られているのも知らずに寝ている
ミ「ラレ」テルノモシラナ「コ」ネテ「ル」, ミ「ラレ」テルノモシランデネテ「ル」
48. (今, 運動会が) ある, (運動会を) やっている 「ア」ル, ヤ「ッ」テ「ル」
49. 降らなくて良かったよ
フ「ラ」ンデ ヨ「カ」ッタヨ*, フ「ラ」ナ「ッ」コ ヨ「カ」ッタケヨ*
- (注) フラッコ~もあると思われるが, この場では話者自身は不使用とのこと。
50. (病院でかかりつけの先生がこっちへ) 来つつある 「キ」テル
51. (犬がこっちへ) 来つつある=50
52. 似ている ニ「テ」ル
53. (一週間も前から遊びに) 来ている=50
54. (あの子は昔から) 苦勞していない 「ク」ローシテ「ン
55. (今はあまり) 苦勞しないている, 苦勞していない=54
56. 酒は売って (は) いるが, タバコは売って (は) いない
サ「キ」ャーウツチャ「ー」イルガ, タ「バカ」ーウツチャ「ー」イナイ
サ「キ」ャーウツテ「ル」ガ, タ「バカ」ーウツチャ「ー」イン
57. (昔からタバコを) 売っている ウツ「テ」ル
58. (今, 夜店で) 売っている=57
59. (もう三回) 来ている=50
60. (いつも) 来ている=50
61. (昔はいつも) 来ていた 「キ」テタ
62. (前に一度) 行っている イ「ッ」テ「ル」
63. さきに行っておいてくれ サ「キ」ーイッテテクリョー*

91. (間違った字を) 書いてしまう
「カ^レイチャウ, 「カ^レイチマウ▼, 「カ^レイテシマウ
92. (ちょっと難しい字を) 書いてみた
「カ^レイテミ^クタ
93. (おじいさんは) 入院している
ニュ^ク「^レインシテ^ル
94. (東京にいる, おじいさんの弟もどこかへ) 入院しているそうだ
ニュ^ク「^レインシテ^ルダ^ッチョー「^ヨ
95. (きっと) 良くなるよ
「^ヨクナ^ルヨ*
96. (だんだん) 良くなるよ
「^ヨクナ^ルヨ*
97. 年をとると(歯が悪くなる), 年をとってくると~
ト「^ショ^クオ^ト「^ルト, ト「^ショ^クオ^ト「^ッテ^ク「^ルト
98. (歯は) 直らなくなる, 直らなくなっていく, 直らなくなってくる
ナ「^オラ^クナ^ル, ナ「^オラ^クナ^ッテ^ク, ナ「^オラ^クナ^ッテ^ク「^ル
(注) この状態が今後も進行することにポイントを置くとき「~いく」といい、
これまで進行してきたことにポイントを置くとき「~来る」というのである。
- 99-1. (犬が) 怪我したので(病院へつれていく) ケ「^ガ「^ク「^シタ^モ「^ンデ
-2. (子供が) 怪我したので~ ケ「^ガ「^ク「^シタ^モ「^ンデ
-3. (お父さんが) 怪我したので~ ケ「^ガ「^ク「^シタ^モ「^ンデ
-4. 雨が降ってきたのでやめておく. 「^ア「^メン^フ「^ッテ^キタ^デ, ヤ「^メト^ク
-5. 雨が降ってきたのでやめた(参考. 「^レ」を弁解的に言うとき).
「^ア「^メン^フ「^ッテ^キタ^モ「^ンデ, ヤ「^メタ
- 100-1. 「雨が降りつつある」は,
a 「降りそうなこと」か, b 「今ぼつぼつ降り始めたこと」か,
c 「すでに盛んに降っていること」か …… b
-2. 「貯金が増えつつある」は,
a 「これから少しずつ増えようとしていること」か,
b 「すでにある程度ふえていること」か …… b
-3. 「貯金を増やしつつある」は,
a 「増やそうと思っていること」か,
b 「それがだんだん実現していること」か, …… b
c 「すでにかなり増えていること」か

注: *マークは, 文末表現で代表的なもののみにとどめたことを示す。

III. まとめ

設問1などに過去形式「~ッケ」を期待したが, 得られなかった。「ッケ」形の使用者は清水市農村部においても, また大井川町においても今でも実際に存在するのは確かなので, この点では不満がある。しかし, 動詞直接に接続する「ッケ」(例: 行ッケ, 降ッケ)は都市部では明らかに少ないことも事実であるし, 今回の調査は設問自体がそれに重点を置くものではないとみて, このまま報告することとした。

本来の方言にあっては形容詞過去形はすべて「ッケ」形であるが, それも本調査では期

待したようには得られなかった。たとえば設問49については過去形としての～イーッケヨという言い方もあり、調査者は話者自身の自然会話からそれを確認している。しかし、質問時は話者自身がそれを否定したので、ここでは採用しなかったのである。それには設問自体が、「降らなくて」という仮定の状況における過去形であるということもあるであろう。この場合でもイーッケはありうるのであるが、質問場面で話者がそれを思い至らなかったことは、それはそれとして記録すべきものと思ひここにありのままを記す。しかし、「ありのまま」といっても「ありのままの答」という意味の「ありのまま」なのであり、方言生活の「ありのまま」ではないのではないかとの念は消えない。

なお「ありがとうございました」をアリガト〜ッケネーと言い、「済みませんでした」をスイマセンケネー、「申し訳ありませんでした」をモーシワケアリマセンケネーのように言う。このような「ケ」は「過去」の助動詞が慣用的に固定したものであることを意味するものであるだろう。

その点を含めて動詞直接「ケ」の用法以外は、おおむね順調な結果が得られたと思う。

(かわもり かずこ 静岡大学人文学部4年生)

(ゆまぐち こうよう 静岡大学人文学部講師)